

小倉川 (作図：)

そして次はヤブこぎ。ガスがかかり、景場平が確認できず通り過ぎてしまう。東吾妻に向っていることが確認できたので、そのままヤブこぎを続け登山道に出る。山頂より姥ヶ原を経て浄土平へ。
(記・)

〔タイム〕

五〇 出合八〇五―沢終了一一二〇―東吾妻山頂一一二〇

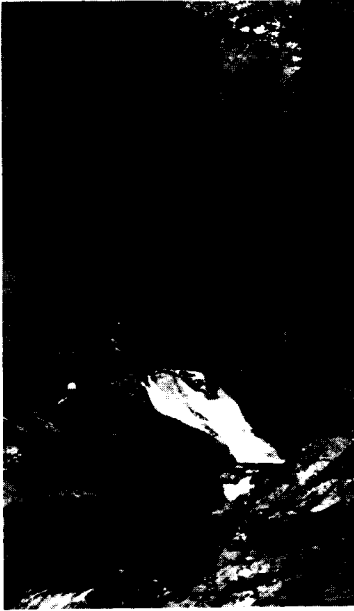
大倉川

一九七六年八月二十九日

◆天気(晴)

前夜橋の下にツェルトを張ってビバーク。四時起床で明るくなつてすぐに出かける。前方に中吾妻を見ながら変化のない河原を進んでいく。六時四五分砂防ダムにつく。このダムは川下が材木で組み立てられた親しみのわくダムである。右岸の山中にけい石場をみる。そこまで

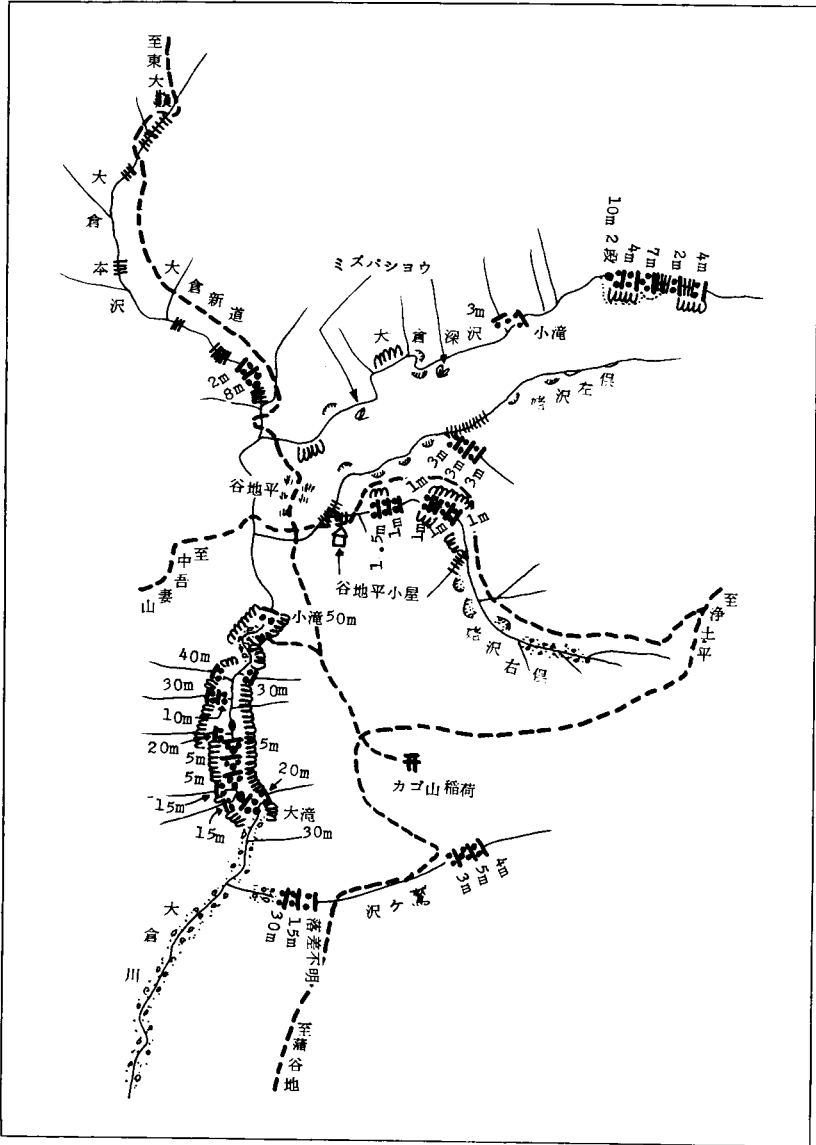
車道がきているらしい。ここまでは何の変化もない沢なので、車で送ってもらおうと時間が短縮されていいだろう。先を急ぐと沢が蛇行している部分に入る。入ったとたんに朝日がまぶしく顔面を輝かした。右岸に五段二段の滝をみる。その後左岸に二〇段級の滝を二つみる。この辺までくると全員がワラジを一足駄目にしてしまった。まだ先は長いので大滝までワラジをつけずに行くことにする。一〇時四五分念願の大滝につく。ここで昼食をとり活力を補い、ワラジをつけ出発。右岸を小さく捲き一七段位の壁を懸垂下降で降り、大滝のすぐ上に出る。大滝



大倉川のゴルジュ



大 倉 川 ・ 大 滝



大倉川 (作図: ○), 大倉本沢 (作図: 〇)
 鷲ヶ沢 (作図: 〰), 大倉深沢 (作図: 〰)
 姥沢 (作図: 半〰) (作図: 〰) 弘



大倉川・小滝

を過ぎると滝が連続するようになる。ちよつとした難所である。腰まで水につかたり、川幅ぐらゐの巨岩があったり、岩と岩の間を通りぬけたりである。一四時五分小滝につく。七〇位の高さで細い滝だが水しぶきを上げてすごい勢いである。時間があれば源流までつめて峠へ下りる予定であったが、一四時を過ぎてしまったので、駕籠山稻荷神社を経て浄土平へでる。(記・加)

(タイム)

出合五・一〇―砂防ダム六・四五―大滝一〇・四五
一・一三・三五―小滝一四・〇五―駕籠山稻荷神社一四・
五〇―浄土平一六・一〇

大倉本沢

一九七八年九月三日

◆天気(曇)

谷地平小屋で姥沢の二パーティと別れ大倉本沢へ。九時二五分出合発。かなり水が冷たい。「せせらぎ」という感じの沢を一五分程進むと八ノと二ノの二段の滝に出る。この二段の滝の他には滝がまったくなく、単調な沢

である。

右側から簡単に越すと、あとは小さなナメがあるだけ。枝沢を頼りに現在地の確認をする。一一時、登山道を沢が横切る所で昼食にし、尾根に出て入道沢の下降に移る。

(記・山)

(タイム)

出合九・二五―沢終了一一・〇〇

大倉深沢

一九七五年六月二十二日

◆天気(雨)

ミズバシヨウを見たいという吉野さんの希望で、谷地平および大倉深沢のミズバシヨウ群落を訪ねて歩くこの山行を企画した。あいにくの雨で全身ズブぬれになったが、例年より開花の遅いミズバシヨウの花をたっぷり観賞することができた。

九時少し過ぎ、姥ヶ原を通り過ぎる頃から雨となった。チングルマの咲く中を雨にぬれながら谷地平へ急ぐ。登山道の一部にまだ雪が残っていて、今年の雪どけの遅さ